

呼吸器外科

概 要

兵庫京大外科専門研修プログラム責任者 部長：本山 秀樹

呼吸器外科学会専門研修基幹施設責任者 部長：本山 秀樹

スタッフ：4名

専攻医：1名

年間手術件数：383（2025年診療実績）

肺癌：170、気胸：35、転移性肺腫瘍：30、縦隔腫瘍：37、感染症（膿胸・肺化膿症）：39、外傷：23 など。

このうち、胸腔鏡下手術：340（ロボット支援下手術:102）

特 徴

1. 専門性は高いが、全身管理を必要とする科である。マンツーマンの指導のもと、年間100例以上の手術患者を担当し、200件以上の手術に参加する。10人前後の入院患者をチーム医療で担当するが、休日は当番制を敷き、オフ時間の確保を目指している。
2. 肺癌手術が大きなウエイトを占めるが、呼吸器外科では入門的な手術である気胸・肺生検・手掌多汗症の症例も多い。また、大都市救急病院であり、胸部外傷患者も多く、多種多様な症例を経験できる。
3. 大多数の手術を胸腔鏡下に行うため、術中は4Kモニターを介して術野を十分に観察でき、録画した動画を閲覧し復習できる。
4. 胸腔鏡手術（多孔式、単孔式）、ロボット支援胸腔鏡手術、開胸手術など多様な呼吸器外科手術術式を経験し習得できる。
5. 日本胸部外科学会指定施設、日本呼吸器外科学会認定（基幹）施設であり、当科での修練は呼吸器外科専門医取得に必要な研修期間・単位として計上される。
6. 一般外科・心臓血管外科・乳腺外科での研修も可能で外科専門研修プログラムに必要な症例を修練でき、希望があれば呼吸器内科や臨床病理での研修も可能である。

一 般 目 標

1. 呼吸器外科医として必要な技能を修得する。
2. 個々の患者さんに、オーダーメイド治療計画を立案し提供する。
3. 外科専門医・呼吸器外科専門医資格に必要な単位を取得する。

行 動 目 標

- 1 年目：**
1. 上級医とともに術前検査、適応、手術方法を計画し、術後管理を習得する。
 2. X線・CT・MRI画像の読影、胸部の解剖を理解する。
 3. 救急治療では胸部外傷の初期治療を習得する。
 4. 胸腔ドレナージ、胸腔鏡・開胸・閉胸操作を行い、気胸手術・肺部分切除では第1助手または術者となる。ロボット支援手術の助手資格を取得する。
- 2 年目：**
1. 手術適応を考慮し、自ら治療計画を立案、そのために必要な検査を行う。
 2. 気胸・肺部分切除の術者、肺葉・区域切除・良性縦隔腫瘍手術では第1助手、症例によっては術者を務める。
 3. high risk 患者の主治医となり、やや困難な術後管理を経験する。
 4. 術後外来を担当する。
 5. 学会発表、症例報告を行う。
- 3 年目：**
1. 肺葉切除では術者、難度の高い呼吸器外科手術では第1助手を務める。
 2. いかなる症例の主治医もこなし、後輩の指導にあたる。
 3. ロボット手術、単孔式手術をパートトレーニングから開始する。
 4. 外来初診を経験する。
 5. 総会発表・原著論文執筆を行う。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝			肺癌カンファレンス 8:00		
午前	手術	病棟業務	手術	病棟業務	手術
午後	手術	術前カンファレンス 13:00 病棟業務	手術	病棟回診 13:00 病棟業務	手術
夕方		呼吸器カンファレンス 16:00			

専門研修プログラム

『兵庫京大外科専門研修プログラム』での一括採用となりますので、呼吸器外科専攻医でも外科専門医を取得可能です。

同プログラムでは最低6ヶ月間の連携病院研修があります。当院研修の2年半の間に一般外科などの他領域の外科症例を経験し、連携病院での研修では呼吸器外科を選択すれば、より広い手術手技を体得できます。

兵庫京大外科専門研修プログラムは、【兵庫京大外科研修プログラムについて】のページもしくは当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

メールアドレス : hideki_motoyama@kcho.jp (部長 : 本山 秀樹)